

【初期対応】 人（家族） への攻撃

初診までの期間は安全のため、患者である犬／猫とできるだけ距離をとってください。具体的な方法として以下のことを、かかりつけ動物病院と相談しながら実施してください。このパンフレットの内容で対応できない場合は、かかりつけ動物病院を通して個別に当院までご相談ください。

犬の対策

■ 隔離する

犬を大きなケージやサークル、人の立ち入らない部屋などで生活させてください。リードで係留し活動範囲を制限するのも選択肢です。ただし係留は、リードによるトラブル（絡まる、首輪やハーネスが抜ける／ずれる）に十分注意し、何かあったときに人がすぐ対応できる状態で実施してください。自宅での管理が困難な場合は動物病院や攻撃的な犬の扱いに馴れたトレーナーに一時的に預けることも選択肢です。

■ 関わりを最小限にする

食事や排泄の世話、散歩などの欠かせない日課以外は、犬との接触を避けてください。近寄る、見つめることも避けてください。世話をするときには攻撃される場合は、準備や片づけのときにも犬／猫を別室に隔離するか、棒など使って離れた場所から世話をすることをご検討ください。散歩で攻撃される場合は散歩に行かない、家の前で排泄させるだけの短い散歩にするのも選択肢です。リードの着脱時に攻撃される場合はリードを終日つけたままにするのも選択肢です。その場合、リードによるトラブル（絡まる、首輪やハーネスが抜ける／ずれる）に十分注意してください。

ブラッシング、足拭き、顔拭き、シャンプー、爪切り、自宅での治療行為、洋服の着脱などは基本的には避けてください。どうしても必要な場合は動物病院や攻撃的な動物の扱いに慣れたペット関連サービスに依頼してください。

～攻撃が起きたとき・起きそうになったときの対策～

室内であれば、静かに犬から離れて別室に移動し、しばらく関わらないでください。叱るとより酷く攻撃される危険があるので、叱らないでください。

屋外で攻撃が起きた場合は、安全な場所に移動し、犬から顔を背け、犬が落ち着くまで待ってください。手や顔を噛まれないようリードを短く足で踏んでおくのも良いです。

猫の対策

■ 隔離する

猫を大きなケージ、人の立ち入らない部屋などで生活させてください。ケージは2段になっているものが望ましいです。生活場所には水飲み、トイレの他、隠れ場所と爪研ぎがあることが望ましいです。

■ 関わりを最小限にする

世話以外では、猫の生活場所に近寄らないでください。猫を触る、見つめるのも避けてください。世話をするときに攻撃される場合は、棒など使って離れた場所から世話をすることをご検討ください。

ブラッシング、シャンプー、爪切り、自宅での治療行為、洋服の着脱などは、基本的には避けてください。どうしても必要な場合は動物病院や攻撃的な動物の扱いに慣れたペット関連サービスに依頼してください。

～攻撃が起きたとき・起きそうになったときの対策～

猫から離れて別室に移動し、しばらく関わらないでください。猫がじっと見つめ威嚇してきたときは、動くだけで攻撃される可能性があるので、何か手近な物を投げ、猫の視線をそらしてから移動してください。室内に何箇所かトリーツを置いておき、威嚇されたらすぐ投げられるようにしておくのも良いです。叱ると猫がより攻撃的になることがあるので叱らないでください。

日本大学動物病院（ANMEC）行動診療科

Tel. 0466-84-3900